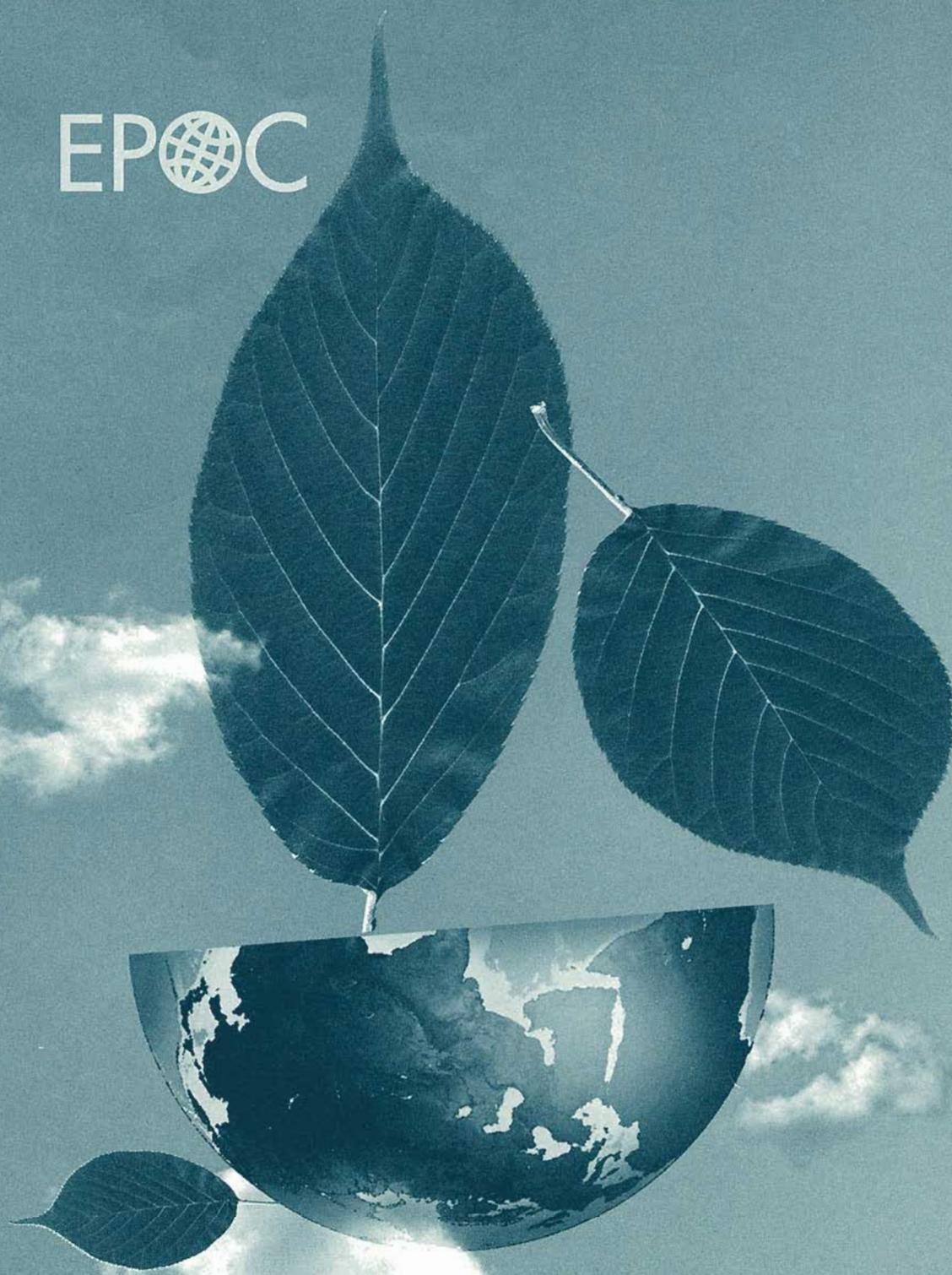


Design: Clemens Metzler  
EPOC



# Annual Report 2001

2001年度 活動報告書 (2001年4月1日～2002年3月31日)

ENVIRONMENTAL PARTNERSHIP ORGANIZING CLUB

環境パートナーシップ・CLUB

# 目次

## 活動の総括

### 活動の総括

ご挨拶	1
年度活動実績の要約	2

### 活動報告

自主行動・社会貢献活動	4
国際交流活動	6
研修会(セミナー)活動	7
交流会活動	10
講演会(フォーラム)活動	12
研究会活動	15
視察・調査活動	16
出版・情報サービス活動	20
環境宣言企業登録システムの 運用・管理活動	21
企画推進活動	22
情報発信機能の強化	23

### 業務報告

総会	26
理事会	26
意見交流会	27
幹事会	27

運営体制組織図	28
---------	----



環境パートナーシップ・CLUB  
会長 安井 義博

平成12年我が国においては廃棄物リサイクルに対する社会的要請に応えるため、「循環型社会形成推進基本法」とその個別法が制定され、正に循環型社会元年と言われる年でありました。

平成13年にはパソコン、自動車などリサイクル品目拡大に向けた法審議が進む一方、京都議定書批准後をにらみ、温暖化ガス排出削減が組み込まれた社会構築を目指すための「地球温暖化対策推進大綱」が決定されました。さらには「土壌汚染対策法案」決定等、国による重要な方針、施策が打ち出されて参りました。

一方、一般市民、投資家など企業を取り巻く人々の環境意識は年々高まりをみせ、企業における環境への取り組みは「環境保全」、「社会貢献」から「企業の最も重要な経営戦略の一つ」ととらえて、企業活動の中に取り組みでいく動きに変わりつつあると言っても過言ではありません。

こうした中、EPOCは2年目を迎え、会員の循環型経済社会への適応、環境経営の実践向上などに資する活動を始め、一般市民、自治体との連携による社会貢献活動、学会との連携による環境技術の研究発表、国際交流活動、展示会出展など多岐に渡る活動を精力的に行い、情報発信して参りました。

また、中期的活動のあり方を「EPOCアジェンダ21」として取りまとめ、2005年に愛知県で開催される国際博覧会「愛・地球博」を、EPOC活動の成果を内外に示す機会と位置付けていくこととしました。

会員各位の熱心な活動に感謝するとともに、更に多くの方々にも積極的に参加いただき、世界に誇れる環境先進地の形成を図って参りたいと存じます。

# 年度活動実績 の要約

EPOCの認知度を向上させるための対外的PR活動を積極的に推進した初年度に続き、平成13年度は、活動基盤の強化と拡大に向けて、会員にとって有益な、成果の高い活動を重点に活動を展開しました。

今期の主な活動を要約しますと、環境技術を習得するための研修会や会員の相互交流を目的とした交流会、講演会を年11回開催し、延べ約2,300名の方々が参加されました。

視察・調査としては、中部圏を中心に北海道から九州まで計7回実施しました。研究成果としては、「ゼロエミッションへの挑戦」等3冊の出版物を作成し、また、「EPOC環境宣言企業登録システム」や「廃棄物再資源化データベース」の構築・運用を行いました。

次に、社会貢献として、「クリーンキャンペーン・なごや」への参加や、(財)海外技術者研修協会等との国際交流を行いました。これらの活動を踏まえ、中期ビジョンとして「EPOCアジェンダ21」の策定を行いました。以上のEPOC活動の情報発信として、ホームページの運営、ファックス通信、「エコプロダクツ2001」出展を行いました。

本年度の主な活動は以下の通りです。

## 部会別活動実績

### 企画推進部会

EPOCの社会的認知度を向上させるため、12月に日本で最大の環境製品展示会である「エコプロダクツ2001」(東京ビッグサイト)へ出展し、EPOCブースへ来場された約2万5千人の来場者へEPOCを強くアピールしました。また、これまでの活動の総括を踏まえ、会員の意見を反映し、今後進むべき方向を「EPOCアジェンダ21」としてまとめるなど、EPOC運営の基盤を構築しました。

### 交流促進部会

交流促進部会は「社会貢献」「国際交流」「エコキャンパスフェスティバル」の3運営グループで構成し、社会貢献面ではEPOCメンバーによる「環境ウォーキング」大会の開催、「クリーンキャンペーン・なごや」への参加のほか、会員企業のリサイクル推進・啓発活動を進め、一般市民の方々や社員への環境意識の浸透を図りました。

また、「エコキャンパスフェスティバル」支援では、名古屋市国際会議場にて実施(名城大学記念式典・大学展に協賛)し、約600名の参加者に環境意識の高揚を図りました。

国際交流面では、米国同時多発テロの影響により、欧州視察を中止しましたが、国内外の環境関連団体「(財)国際環境技術移転研究センター、エフィツィエンツアгентトゥアーNRW」や、海外研修生の受入機関「(財)海外技術者研修協会」との交流会を実施し、相互理解を深めることができました。

### 産業エコロジー部会

産業エコロジー部会では循環型経済社会の構築に向け、会員企業のニーズの高い分野を中心に「研修会」「交流会」「講演会」「研究会」「視察調査」及び「出版・情報サービス」の活動を展開しました。本年度は、特に従来のゼロエミッション活動以外に、「土壌修復」、「新エネルギー」の2つのテーマを新たに加え、会員のレベルアップと環境行動の普及に貢献しました。

まず「研修会」では、東海技術センター、土壌環境センターと共同で、土壌環境問題について3回のセミナーを開催し、延べ300名以上の参加者が研修に参加しました。さらに、化学工学会と共同で廃棄物処理、リサイクル技術に関する研修会を開催し、工学的、技術的観点から勉強できる場を提供しました。

次に「交流会」「講演会」活動では、延べ7回2,000名の参加者を集め、循環型社会構築に向けた最新情報をタイムリーに提供しつつ、行政機関や大学研究機関とも連携し、環境行動の普及とこれら機関とのパートナーシップ活動の拡大を図りました。

さらに「研究会」活動では、「ゼロエミ診断マニュアル」の製作と「ゼロエミ事例集」の作成などを通じ、ゼロエミッション

の会員間への普及展開を図りました。また「環境行動プログラム」開発に関連して、本年度は新エネルギーに取り組む先進事例の調査を行いました。

そして「視察、調査」活動を6回開催し、延べ200名が参加しました。本年度は研究会とも連携しつつ、先進事例を直接現地で調査し、これら先進事例が導入された背景やそのための努力などを聞き、今後の普及活動の一助としました。

最後に「出版・情報サービス」活動では、会員の皆様にご尽力をいただき、「循環型社会にむけて」「ゼロエミへの挑戦」を出版し、またインターネットを通じて再資源化データベースを公開し、EPOC内の普及啓発活動から、会員の枠を超えた環境行動の普及にも着手しました。

### 環境経営標準化部会

「EPOC環境コミュニケーションシステム(旧称:EPOC環境宣言企業登録システム)」は、そのシステムについて、会員企業、NPOからの意見収集を目的に、26企業・団体の協力を得てインターネット上で仮運用(5月23日~6月30日)を行いました。これは、日本経済、日刊工業、中日新聞の各誌及び毎日新聞の企画特集に取り上げられEPOC活動のPRとなりました。

また、8月から本格運用に移行し、50の企業・団体が参加されています。当システムの運営とともに、EPOC会員企業に、その参加メリットが「何らかの形で目に見えるもの」となるように、登録内容・構成の見直し、インターネット上で自己登録できるシステム開発を行いました

## 会勢

平成14年3月末日現在の会員数は304社でした。

## 収支

以上諸活動の結果として、収支実績は、本年度収入49,533,372円に対して、43,575,174円を支出し5,958,198円を次年度へ繰り越しました。

# 活動報告

# 自主行動・ 社会貢献活動

EPOCメンバーによる「環境ウォーキング」大会の開催、「クリーンキャンペーン・なごや」への参画等により、EPOCの認知度を高め、広く環境に対する関心・問題意識等を一般市民レベルにまで浸透させ、啓発を行いました。

平成13年6月2日  
クリーンキャンペーン・なごや2001  
に参加し、清掃活動を実施

「クリーンキャンペーン・なごや2001」にEPOCとして協賛し、清掃活動を午前10時から鶴舞公園周辺で行いました。



当日は晴れ渡り、清掃活動がしやすい日となりました。中部経済産業局や会員企業等の38団体から82名の有志のご参加をいただき、その中には静岡から駆けつけた会員や夫人同伴の方もいらっしゃいました。1時間程度の清掃活動でしたが、EPOCによる社会貢献活動として地域への貢献を行い、市民の方々の環境への関心を得ることができました。

主催 名古屋市、名古屋都市美化連盟  
協賛 環境パートナーシップ・CLUB

平成13年10月31日  
クリーンキャンペーン・なごや2001  
に参加し、清掃活動を実施

「クリーンキャンペーン・なごや2001」が栄広場周辺で実施され、EPOCもキャンペーンに協力し、清掃活動を行いました。



EPOCからは会員企業等33団体、76名のご参加をいただきました。1時間程度の清掃活動を行い、地域への貢献を行うとともにEPOCの認知度を向上させることができました。

主催 名古屋市、名古屋都市美化連盟  
協賛 環境パートナーシップ・CLUB

平成13年11月11日  
環境ウォーキング  
を実施

午前10時から正午迄、名城公園にて「環境ウォーキング」を実施しました。

当日はお子様からシルバー層まで幅広い年齢の方々400人が参加。さわやかな秋晴れのもと、家族ぐるみ、学生グループ、友人同士がゴミを拾いながらクイズラリー形式のウォーキングに汗を流しました。また、EPOCから安井会長、名古屋市から越智環境局長をはじめ、多くの幹部の方々にもご参加いただいたほか、運営面では環境問題に熱心に取り組む市民グループ「もっともっと環境塾2000」と「中部地区環境サークルのネットワーク」にもご協力いただき、一般市民、NPO、自治体との連携を図ることができました。



開会式の様子(名古屋市 名城公園)

主催 環境パートナーシップ・CLUB、  
名古屋市  
後援 中部経済産業局、愛知県

平成13年4月～12月  
EPOC会員の清掃活動  
について

EPOC会員が4月～12月の9ヶ月間に、延べ約16,300名(58企業)参加し、各会員事業所周辺等のクリーン活動を実施しました。

多くのEPOC会員が、空き缶・空きびん等のゴミ回収や地域清掃を行い、地域社会へ貢献しています。



平成13年9月21日～24日  
第2回エコキャンパス  
フェスティバル報告

次代を担う青少年に対する環境情報の提供、環境意識の高揚を図るための「第2回エコキャンパスフェスティバル」を実施しました。

昨年に引き続き、EPOCのPRの場としてまた、会員企業が取り組んでいる環境活動や環境に配慮した製品・技術を、21世紀を担う若年層に広く伝達し、環境に対する認識を深めるために実施しました。

今回は名城大学のご協力により、開学75周年記念行事会場(名古屋国際会議場イベントホール)において3日間にわたり、会員企業22社の出展を行いました。3日間の入場者数は名城大学生を中心に、教職員や社会人など約600名でした。



会場内の風景

#### 出展会員企業名

日本ガイシ(株)、(株)INAX、中部電力(株)、東海舗道(株)、富士通(株)、フルハシ工業(株)、岡谷鋼機(株)、東邦ガス(株)、(株)日立製作所、(株)サンキョークリエイト、新東工業(株)、(株)山田組、名古屋メッキ工業(株)、小島プレス工業(株)、トヨタ自動車(株)、プラザー工業(株)、安田火災海上保険(株)、(株)大林組、(財)科学技術交流財団、中部経済産業局、日本福祉大学、環境パートナーシップ・CLUB

# 国際交流活動

環境行動の先進国である欧州視察は中止となりましたが、国内外の環境関連団体、海外研修生の受入機関との交流会を実施し、相互理解を深めることに努めました。

平成13年10月17日～18日  
**(財)国際環境技術移転研究センター  
ICETTとの交流**

平成13年11月28日  
**エフィツィエンツ アгентトゥアー  
(EFA)NRWとの交流**



ドイツ(ノルトラインヴェストファーレン州)で中小企業を対象に「環境投資による生産の効率UP」を目的としたコンサル支援を行っている、エフィツィエンツアгентトゥアーNRWと2時間弱にわたり、交流会を行いました。

EFAからは、ペーター・ヤーン氏 (Managing Director)、ミヒヤエル・ニームチク氏 (Project Manager)のお二人に出席いただき、相互にプレゼンテーションを行い交流を深めました。

中部経済産業局  
32名参加

ICETTのCTIワークショップ(研修参加者15名)へ大野部会長とメンバー企業の環境担当者((株)日立製作所産業システム事業部 市川氏)を講師として派遣させていただき、両日計約4時間半にわたって、EPOC活動の紹介と「環境管理プログラムとその現状」及び「環境管理・環境管理手法」と題して講義を行いました。  
(CTI: Climate Technology Initiative)

平成14年3月1日  
**(財)海外技術者研修協会(AOTS)  
との交流**

(財)海外技術者研修協会(以下、AOTS)との交流会を実施しました。AOTS研修生21名参加。

(AOTS: The Association for Overseas Technical Scholarship)

(株)日立製作所の環境管理の技術担当者より、事業所の地球温暖化防止を目的とした生産活動におけるエネルギーの削減、産業廃棄物の削減、環境に配慮した製品開発への取り組みと使用済み製品の回収まで等、環境への各種取り組みの紹介があり、意見交流会では活発な質疑応答がありました。

日立製作所 豊川工場  
32名参加

# 研修会 (セミナー)活動

環境行動に熱心に取り組む企業の実務者を中心に、専門的な環境技術の知識を習得するためのセミナー(研修会)を開催し、EPOCメンバーのレベルアップを図りました。

平成13年7月16日  
第2回セミナー  
最新情報  
土壌環境を考える

世界の経済先進国に共通の環境課題として、今日、土壌・地下水汚染の修復に対する取り組みが各方面で進められています。これに係わる企業の責任とリスク、的確な実態把握と適切な修復処置、修復費用と損害賠償責任等々、土地の所有者と企業経営者の頭を悩ませる問題が山積しています。

企業の責任とリスク、損害賠償責任の対応等の諸問題について、長年実務に携わってこられた専門家を講師に招き、トップマネジメントに携わる方々の意志決定に役立つセミナーを開催しました。

メルパルク名古屋  
110名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
(財)東海技術センター  
後援 中部経済産業局、愛知県、  
名古屋市、名古屋商工会議所、  
(社)土壌環境センター

## 講演概要

- 1 土壌・地下水汚染による企業の責任と対策  
佐藤泉法律事務所  
弁護士 佐藤 泉 氏
- 2 土壌・地下水汚染と企業リスク  
AIU保険会社 新種保険業務部長  
法政大学講師 大岡 健三 氏
- 3 土壌環境センターの役割と活動  
(社)土壌環境センター  
理事 金原 暁治 氏

平成13年9月7日  
第3回セミナー  
土壌・地下水汚染に係わる調査・対策指針  
及び運用基準に関する実務セミナー

平成11年1月29日、環境庁より「土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針及び運用基準」が公表されました。その後、約2年半が経過し、「指針及び運用基準」にそって土壌・地下水汚染の調査・対策が実施されてきました。

これを受けて今回、企業の環境管理担当者や、土壌・地下水汚染対策において、比較的実務経験の浅い方を対象として、土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針及び運用基準についての実務セミナーを開催しました。

名古屋商工会議所  
100名参加

主催 (社)土壌環境センター  
協賛 (財)東海技術センター、  
名古屋商工会議所、  
環境パートナーシップ・CLUB

## 講演概要

- 1 国内外の土壌・地下水汚染問題と対策  
(社)土壌環境センター  
専門委員 美坂 康有 氏
- 2 事例を踏まえた土壌・地下水汚染に係る調査及び評価について  
(社)土壌環境センター  
坂本 大 氏
- 3 事例を中心とした土壌・地下水汚染に係る浄化処理対策について  
(社)土壌環境センター  
対策指針WGメンバー  
白鳥 寿一 氏
- 4 「調査・対策指針及び運用基準」に寄せられた質問について  
(社)土壌環境センター  
対策指針WGメンバー  
峠 和男 氏



平成13年10月24日～26日

第4回セミナー

### 廃棄物処理－循環型社会に向けて

廃棄物を出さない工夫と廃棄物の減量化、再利用、再資源化を可能にすることによって資源循環型社会を構築するための方向性、指針についてより具体的な対応が早急に求められています。廃棄物の処理をキーワードに、関連する法体系の求める循環型社会の実現に向けて、基礎学理からプロセス・操作・分析技術について、実際の成果と将来展望について第一線の研究者・技術者が解説を行いました。



名古屋市工業研究所

300名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
(社)化学工学会東海支部

協賛 日本水環境学会、環境科学会、  
廃棄物学会、粉体工学会、  
日本膜学会 他

### 講演概要

#### 第1日目

有機系固形廃棄物、廃液処理

#### 1 総論

名古屋大学 松田 仁樹 氏

#### 2 ゴムのリサイクル処理

豊田 合成(株) 竹内 勝政 氏

#### 3 プラスチックス処理

三菱化学MKV(株) 牧野 哲哉 氏

三菱化学(株) 平川 克己 氏

#### 4 PETボトルのリサイクル技術

日本車輛製造(株) 犬塚 正憲 氏

#### 5 有機スラッジの工業原料化による リサイクル

静岡大学 中崎 清彦 氏



#### 6 超臨界流体による廃棄物処理

静岡大学 佐古 猛 氏、岡島 いづみ 氏

#### 7 金属含有廃液の処理技術

名古屋市工業研究所 秋田 重人 氏

名古屋大学 高橋 勝六 氏

#### 8 廃液の電解処理プロセス

静岡大学 須藤 雅夫 氏

#### 9 電気めっきにおける廃液処理及び 資源リサイクル

三進製作所(株)

福田 正 氏、柳下 幸一 氏

## 第2日目

### 無機系固形廃棄物、気体系処理

- 1 廃棄物処理法制の現状と課題  
静岡大学 恒川 隆生 氏
- 2 無機系固形廃棄物のセラミック  
系建材への高度リサイクル  
(株)INAX 久野 裕明 氏
- 3 無機系固形廃棄物のセメントへの  
リサイクル化  
太平洋セメント(株) 大住 眞雄 氏
- 4 カルシウム系廃棄物の酸性ガス  
吸収剤への応用  
名古屋大学  
小澤 祥二 氏、松田 仁樹 氏
- 5 ダイオキシン類、PCB、POPs 分析  
(株)島津テクノリサーチ 高菅 卓三 氏
- 6 気体系処理における触媒の利用  
名古屋大学 田川 智彦 氏
- 7 揮発性有機化合物処理  
新東工業(株) 後夷 光一 氏
- 8 酸性ガス的高温除去  
産業技術総合研究所  
鈴木 憲司 氏、芝崎 靖雄 氏
- 9 高エネルギー技術による廃棄物処理  
中部電力(株)  
田中 和士 氏、竹内 章浩 氏、  
棚橋 尚貴 氏

## 第3日目

### 金属廃棄物の回収、 複合廃棄物の再資源化

- 1 廃棄物処理の科学  
名古屋大学 伊藤 秀章 氏
- 2 金属のリサイクルにおける  
有害微量元素の分析  
(株)東海テクノリサーチ 妹尾 健吾 氏
- 3 金属系廃棄物処理と非鉄金属の  
リサイクル  
名古屋大学 藤沢 敏治 氏
- 4 鉄鋼のリサイクル  
新日本製鉄(株) 吉村 尚 氏、高木 信浩 氏
- 5 軽金属(アルミ)の回収とリサイクル  
日本軽金属(株) 濱辺 順彦 氏
- 6 複合廃棄物の分離、リサイクル技術  
トヨタ自動車(株) 近藤 元博 氏
- 7 廃棄物のRDF化によるサーマル  
リサイクル技術  
名古屋大学 森 滋勝 氏
- 8 ガス化熔融炉による一般廃棄物の  
無害化技術  
日本ガイシ(株) 井元 義訓 氏
- 9 有機廃液の超音波処理  
名古屋大学 香田 忍 氏

平成13年11月30日

第5回セミナー

### 土壌環境に関する対応の実務者セミナー

土壌・地下水汚染に対する取り組みについては、平成11年1月29日に環境庁から「土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針及び運用基準」が公表され、その後この指針に沿って土壌・地下水汚染の調査・対策が実施されてきました。

平成13年9月に土壌汚染対策のための実務者向けハンドブックとして、「土壌汚染の対応と実務」が発行され、この新刊書を用いた土壌汚染に関する実務者向けのセミナーを行いました。

産業技術記念館

100名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB

(財)東海技術センター

後援 中部経済産業局、愛知県、

名古屋市、名古屋商工会議所

協賛 (社)土壌環境センター

### 講演概要

- 1 新刊書 土壌汚染と対応の実務  
内容解説(その1)  
(社)土壌環境センター  
編集委員 峠 和男 氏
- 2 新刊書 土壌汚染と対応の実務  
内容解説(その2)  
(社)土壌環境センター  
編集委員 白鳥 寿一 氏
- 3 土地取引と土壌汚染  
(財)日本不動産研究所  
大阪支所 副支所長 山本 忠 氏

# 交流会活動

環境行動に取り組むEPOCメンバーが集まり、先進的な環境行動情報の修得を図ったり、個別テーマによる情報交換の場を持つことにより、レベルに応じた会員間でのベンチマーク活動を促進しました。

さらに、他の環境行動推進団体との積極的な協力関係を築き、幅広い交流活動を展開しました。

平成13年12月5日～6日

第5回交流会

資源循環型生産システム

国際シンポジウム

中部地域の産・学・研究・行政機関が総力を挙げて結集して日頃の研究成果、最新の生産技術開発及び改善事例などの発表会を開催しました。

産業技術記念館

370名参加

主催 第6回資源循環型生産システム

国際シンポジウム実行委員会

名古屋市

(財)名古屋都市産業振興公社

環境パートナーシップ・CLUB

名古屋商工会議所

(社)中部産業連盟

(財)科学技術交流財団

(財)東海技術センター

中日新聞社

独立行政法人産業総合研究所

名古屋市工業研究所

資源循環型生産システム研究会

協賛 化学工学会

日本化学会

日本エネルギー学会

日本金属学会

日本鉄鋼協会

日本粉体工業技術協会

エネルギー・資源学会

廃棄物学会

東海化学工業会

高分子学会東海支部

## 基調講演

エネルギーと資源の循環理論

芝浦工業大学

学長補佐 武田 邦彦 氏

資源循環型社会に向けた技術と経営

NKK(株)

代表取締役 副社長 半明 正之 氏

## 受賞事例研究発表

### 1 名古屋市長賞

事例 コークス炉化学原料化法による  
プラスチックリサイクル

受賞者 新日本製鐵(株)

### 2 環境パートナーシップ・CLUB会長賞

事例 機械工場における水溶性クーラ  
ント廃液のリユース化

受賞者 トヨタ自動車(株)

### 3 環境パートナーシップ・CLUB特別賞



事例 チェーン回転式混合機による建設  
発生土の有効利用

受賞者 日本国土開発(株)

### 4 中日新聞社賞

事例 都市近郊型畜産産業の畜産廃棄物  
再資源化・循環システムの構築

受賞者 (株)フルハシ環境総合研究所

### 5 名古屋市工業研究所所長賞

事例 廃プラスチックの液化燃料化サー  
マルリサイクルシステムの構築

受賞者 トヨタ自動車(株)

### 6 名古屋商工会議所会頭賞

事例 エバポレータ用ノンクロメート  
表面技術の開発

受賞者 株式会社デンソー

日本パーカラライジング(株)

### 7 社団法人中部産業連盟会長賞

事例 キュボラ式ガス化熔融炉の開発

受賞者 アイシン高丘(株)

### 8 科学技術交流財団理事長賞

事例 タイヤゴムリサイクル技術

受賞者 (株)豊田中央研究所

トヨタ自動車(株)

豊田合成(株)

### 9 科学技術交流財団理事長賞

事例 タイヤゴムリサイクル技術

受賞者 (株)豊田中央研究所

トヨタ自動車(株)

豊田合成(株)

### 10 名古屋都市産業振興公社理事長賞

事例 プラズマ熔融による医療廃棄物  
処理技術の開発

受賞者 中部電力(株)

平成14年2月8日  
第6回交流会  
新エネルギーの将来  
コージェネレーションへの期待

- 11 東海技術センター理事長賞  
事例 鋳造工場で発生する廃棄物を活用したリサイクル開発  
受賞者 アイシン高丘(株)
- 12 資源循環型生産システム研究会会長賞  
事例 包装レス・リターナブル包装への取り組み  
受賞者 (株) INAX
- 13 資源循環型生産システム研究会技術賞  
事例 広域常温熱輸送システムのサイクル研究  
受賞者 東邦ガス(株)
- 14 資源循環型生産システム研究会技術賞  
事例 公共廃材を積極利用した外装タイル生産システムへの取り組み  
受賞者 (株) INAX
- 15 資源循環型生産システム研究会奨励賞  
事例 リサイクル瓦材を用いた高透水性、高保水性舗地  
受賞者 瓦3R推進研究会
- 16 資源循環型生産システム研究会奨励賞  
事例 都市ガス式飛灰溶融酸素バーナの開発  
受賞者 東邦ガス(株)  
大同特殊鋼(株)  
日本酸素(株)
- 17 資源循環型生産システム研究会奨励賞  
事例 インメトコ法による製鉄廃棄物の再資源化  
受賞者 大同特殊鋼(株)

持続可能な発展を目指す循環型社会の形成に必要なエネルギー供給の観点から、コージェネレーションを中心とした新エネルギーの普及啓発を目的とした交流会を開催しました。

産業技術記念館  
260名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
後援 中部経済産業局、  
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)  
日本コージェネレーションセンター

### 基調講演

新エネルギーの将来



東京農工大学大学院  
教授 柏木 孝夫 氏

### 事例報告

- 1 コージェネレーションの最新技術と環境対策  
東邦ガス(株)  
産業エネルギー 営業部  
マネジャー 横井 隆幸 氏
- 2 名古屋市におけるコージェネレーション導入事例  
名古屋市住宅都市局 営繕部  
営繕企画課設備計画係  
係長 山口 真市郎 氏
- 3 ワシントンホテルにおける環境対策と燃料電池導入  
ワシントンホテル(株)広報室  
室長 安藤 徳 氏

# 講演会 (フォーラム)活動

民間企業、行政、及び一般市民等に対し、開催地の行政機関との連携を持って環境経営全般に関する情報を広く提供することにより、リサイクル・リユース等の環境行動(環境負荷低減を図るための諸活動)

の意識の喚起、理解や認識の深化を図るとともに、パートナーシップ活動の拡大を図りました。

平成13年5月12～13日  
第3回フォーラム  
アジアの環境保全

環境対策、資源循環利用などアジアの環境保全に貢献する新しい研究内容について幅広い観点から、最新情報収集を目的に開催しました。



産業技術記念館 大ホール  
150名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
日本学術振興会

## 講演概要

- 1 アジア地域における経済及び環境の相互依存と環境保全に関する学術的研究  
慶應義塾大学 産業研究所  
教授 吉岡 完治 氏
- 2 中国南部における石炭エネルギーを基軸とした環境共生型都市システム構築に関する技術開発研究  
名古屋大学 大学院工学研究科  
教授 森 滋勝 氏
- 3 地域社会に対する開発の影響とその緩和方策に関する研究  
東京大学 大学院医学系研究科  
教授 大塚 柳太郎 氏
- 4 中国西南部における生態系の再構築と持続的生物生産性の総合的開発  
北海道大学 大学院農学研究科  
教授 出村 克彦 氏
- 5 フィリピンにおける大都市地域及び地方部の整備開発保全に関する研究  
東京工業大学大学院総合理工学研究科  
教授 大町 達夫 氏
- 6 地球環境情報収集の方法の確立ー水系に関する総合調査マニュアルの作成  
京都大学生態学研究センター  
教授 和田 英太郎 氏

平成13年6月8日  
第4回フォーラム  
21世紀の循環型環境都市への展望



EPOCの昨年度活動成果を報告するとともに、愛知県、名古屋市が取り組んでいる循環型社会の構築を目指した新しい研究事業について幅広い観点から最新の情報収集を目的に開催しました。

産業技術記念館 大ホール  
350名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
(財)科学技術交流財団

平成13年6月29日  
第5回フォーラム  
**環境戦略を考えるーライフサイクル  
マネジメントの展開**

**講演概要**

- 1 循環型社会と市民、企業の関わり  
地域結集型共同研究事業 研究統括  
名古屋大学大学院工学研究科  
教授 架谷 昌信 氏
- 2 EPOC 成果報告会  
産業エコロジー部会報告  
環境経営標準化部会報告
- 3 地域結集事業の概要説明  
名古屋大学大学院工学研究科  
教授 森 滋勝 氏

**パネルディスカッション**

地域結集事業の今後の展開  
司会

名古屋大学大学院工学研究科  
教授 架谷 昌信 氏

パネラー

名古屋大学大学院工学研究科  
教授 森 滋勝 氏  
名古屋大学大学院工学研究科  
教授 入谷 英司 氏  
名古屋大学難処理人工物研究センター  
教授 藤澤 敏治 氏  
(株)ブラック研究所生態研究センター  
センター長 只木 良也 氏  
豊橋技術科学大学エコロジー工学系  
教授 藤江 幸一 氏  
国立歴史民俗博物館  
教授 篠原 徹 氏  
中部リサイクル運動市民の会  
代表 萩原 喜之 氏  
(財)科学技術交流財団新技術  
エージェント 藤澤 寿郎 氏

「環境マネジメントシステム」の運用をベ  
ースに、「ライフサイクルアセスメント」、  
「環境会計」、「環境パフォーマンス評価」  
などを統合させるためのマネジメントで  
ある「ライフサイクルマネジメント」の意  
義と今後の展開について考えることを目  
的に開催しました。

名古屋銀行協会 5階大ホール  
160名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
日本福祉大学  
後援 中部経済産業局  
愛知県、名古屋市  
(財)名古屋市都市産業振興公社

**基調講演 I**

循環型経済社会の構築に向けた経済産業  
活動の課題とは一環境効率性の実現に向  
けた環境経営のあり方  
経済産業省産業技術環境局  
リサイクル推進課長  
田辺 靖雄 氏

**基調講演 II**

エコバランス経営ー  
ライフサイクルマネジメントの視点から  
奈良産業大学経営学部  
教授 富増 和彦 氏

**事例報告**

企業におけるライフサイクル  
マネジメントの実際

**事例 I**

リコーライフサイクルマネジメント  
(株)リコー社会環境本部  
環境経営推進室長 則武 祐二 氏

**事例 II**

人と地球を考えたものづくりと環境  
マネジメント

(株)INAX 技術統括部

環境推進室

再資源化担当課長 川合 和之 氏

**事例 III**

新サービス「エコ解体」

フルハシ工業(株)

執行役員 ソリューション カンパニー長  
前田 雅之 氏

**パネルディスカッション**

司会・コーディネーター

日本福祉大学大学院情報・経営開発  
研究科教授 近藤 悟 氏

日本福祉大学大学院情報・経営開発  
研究科教授 足立 浩 氏

パネリスト

経済産業省産業技術環境局

リサイクル推進課長 田辺 靖雄 氏

奈良産業大学 経営学部

教授 富増 和彦 氏

(株)リコー社会環境本部

環境経営推進室長 則武祐二 氏

(株)INAX 技術統括部環境推進室

再資源化担当課長 川合 和之 氏

フルハシ工業(株)執行役員

ソリューション カンパニー長

前田 雅之 氏

平成13年10月1日  
第6回フォーラム  
化学物質による地球環境汚染を防止する  
—地球環境汚染の現状と化学物質の  
リスク管理の実際

化学物質は、便益もたらす一方で、適切な管理が行われないと深刻な地球環境汚染を引き起こし、人の健康や生態系に有害な影響を与える危険性(リスク)を有する場合があります。このため、化学物質の有用性を活かしつつ、有害性がもたらす影響を予防的に管理し、より安全で環境と調和した化学物質の利用を進めていくことが求められています。化学物質の管理の改善を促進し、環境保全上の支障を未然に防止するために、企業としていかに対応するか、その方向性を示すことを目的に開催しました。

講演概要

- 1 残留性有機汚染物質(POPs)による地球規模の汚染とその生態影響  
愛媛大学沿岸環境科学研究センター  
教授 田辺 信介 氏
- 2 化学物質のリスク管理事例その1  
藤森環境経営研究所代表  
元 日本電気環境エンジニアリング(株)  
社長 藤森 敬三 氏
- 3 化学物質のリスク管理事例その2  
(株)東芝 環境・リサイクル推進センター  
参事 實平 喜好 氏

今池ガスビル9階ガスホール  
180名参加

主催 環境パートナーシップ・CLUB  
(財)東海技術センター  
後援 中部経済産業局、愛知県、  
名古屋市、名古屋商工会議所

平成13年10月17日  
第7回フォーラム  
激動の時代の企業戦略

IT革命や環境革命など様々な時代の変革に対して、企業の経営戦略としてどのような対応が図られているのか、また今後の企業戦略上、どのような分野に産業がシフトするのかなど、今後の取り組みの参考とすることを目的に開催しました。



講演概要

- 1 住宅業界の将来展望と勝ち残り戦略  
(株)INAX 専務取締役  
経営管理統括部長 杉野 正博 氏
- 2 岐路に立つ日本の石油化学  
三菱化学(株)  
常務執行役員 前川 美之 氏
- 3 モノ創りと環境  
ブラザー工業(株)  
代表取締役社長 安井 義博 氏
- 4 NEDOにおけるエネルギー・  
環境技術開発の課題と展望  
新エネルギー・産業技術総合開発機構  
環境技術開発室 室長 東郷 洋一 氏

産業技術記念館 大ホール  
250名参加

主催 (社)化学工学会東海支部  
協賛 資源循環型生産システム研究会  
環境パートナーシップ・CLUB



循環型経済社会の構築を目指し、その目的の実現に向けた各種研究活動を実施し、EPOCメンバーによる情報発信機能の強化を図りました。

## ゼロエミッション推進のための 診断マニュアル研究会

業種横断的な会員構成をもつEPOCの特長を活かし、ゼロエミッション推進に向けた取り組みをマニュアルの形に取りまとめ、会員間で共有することにより、会員各社における取り組みを支援する目的で活動を実施しました。主要項目として、汚泥、廃プラ、一般ゴミに重点を絞り、会員から提供された先進的な事例をもとに、ゼロエミッション推進のためのポイントを抽出し、マニュアル化しました。

援助 環境事業団「地球環境基金」

## ゼロエミッションを支援する情報 システム研究会

産業間連携による資源リサイクルシステムの構築のため、「情報システム研究会ゼロエミッション」を推進しようとする企業による対象物の受け入れ先探しや品質・数量管理を支援する「循環情報システム」に対するニーズを把握し、概念設計を行いました。具体的には、現状提供されている廃棄物情報システムについて調査し、情報システムの利用状況とニーズを調査しました。その結果、EPOCとして、排出側と受け入れ側のマッチングに活用可能な基盤整備として、受け入れ先等に関する情報の収集・データベース化の推進を図ることを提案しました。

援助 環境事業団「地球環境基金」



第3回研究会環境経営要素に関する研究会

平成14年1月22日

第3回研究会

環境経営要素に関する研究会

## EPOC環境宣言企業登録システムの進化

EPOC環境宣言登録システム参加企業を中心に、「EPOC環境宣言企業登録システム」の進化をテーマに研究会を開催しました。参加企業の環境行動の取り組み状況紹介や当システムへの期待を公表し、また、そのメリットが「何らかの形で目に見えるもの」となるようにシステム進化について議論しました。この研究会では、当システム進化に対し、EPOC内外へのPR活動が、さらに分かりやすく、環境行動の情報共有化ができるデータベース化などの必要性について多数の示唆を得ることができました。

研究会で得た示唆をもとに、登録内容を見直し、あわせて会員企業がEPOCホームページ上で自己登録できるようにシステム化しました。

監査法人トーマツ名古屋事務所  
53名参加

## 環境行動プログラム研究会

EPOC会員企業を中心に、天然ガスを主体にしたガスタービン・ガスエンジン・マイクロガスタービン・小規模燃料電池の現況を調査し、EPOC会員企業や一般企業はもとより、市民にもコージェネレーションが理解できる事例集を作成、配布し、啓蒙を図りました。並行して、先駆的で参考となる事例を抽出し、視察を行い、参加者の認識を深めることができました。

援助 新エネルギー産業技術総合開発機構  
(NEDO)  
「新エネルギー草の根支援事業」

# 視察・調査活動

循環型経済社会の構築を目指し、実際に事業活動の中で取り組んでいる先進事例を視察・調査を行い、EPOC会員の自己研鑽並びにレベルアップを図りました。

平成13年5月31日～6月1日

第2回視察調査

札幌エコタウン視察

EPOCの目標でもある「資源循環型経済社会の構築」を目指した事業に先駆的に取り組んでいる札幌市の「エコタウン事業」などの実情を視察するツアーが産業エコロジー部会の呼びかけにより実施されました平成10年9月に承認を受けた「札幌エコタウン」を中心に、9施設を視察しました。26名参加



ペットボトル・フレーク化施設  
(札幌市リサイクル団地)



上 中沼資源選別センター  
下 マイカル小樽内エコステーション



生ゴミリサイクルセンター

## 視察施設

マイカル小樽エコステーション施設

マイカル小樽エネルギー供給(株)

札幌エコタウン

札幌市中沼プラスチック選別センター

中沼資源選別センター

建設系廃材リサイクルセンター

プラスチック油化施設

ペットボトルシート化施設

ペットボトルフレーク化施設

生ごみリサイクルセンター

中沼産業廃棄物処理センター

廃コンクリート再生施設

廃タイヤリサイクル施設

平成13年9月14日

第3回視察調査

名古屋プラスチックリサイクル最前線

循環型社会形成におけるリサイクルシステムの最前線、特に廃プラスチックに焦点を当て視察ツアーを計画致しました。家電リサイクル法、容器包装リサイクル法に基づくプラスチックリサイクル処理企業を中心に3施設を視察訪問しました。43名参加



視察施設

グリーンサイクル(株)

名古屋プラスチックハンドリング(株)

新日本製鐵(株) 名古屋製鐵所

(プラクチックリサイクルセンター)

平成13年10月11日～12日

第4回視察調査

廃棄物のサーマルリサイクル

ゴミや廃棄物の再資源化及び有効な熱エネルギーの活用施設を視察しました。また、地域の環境活動の参考事例として、北九州博覧祭2001を視察しました。24名参加

でんぱつ施設見学時の現場説明風景



視察施設

八女西部クリーンセンター

電源開発(株)(でんぱつ)

北九州博覧祭2001

(エコパークゾーン 環境ミュージアム)

平成14年1月18日

第5回視察調査

民生用コージェネレーションシステム

EPOC 産業エコロジー部会環境行動プログラム研究会で進めている「天然ガスを利用した市民(企業含む)向けコージェネレーション事例集の作成と普及活動」の一環として、今回は、実際に成果を上げている民生用を主体としたコージェネレーションシステムの視察を行いました。

34名参加

視察施設

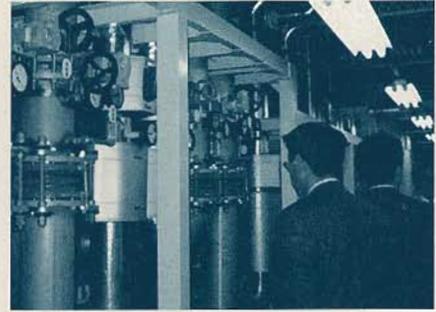
- 名駅南地域冷暖房
- 栄ワシントンホテル
- 東邦ガス総合研究所
- 愛知健康の森

援助

- 新エネルギー産業技術総合開発機構 (NEDO)
- 「新エネルギー草の根支援事業」



名駅南地域冷暖房  
ガスタービンコージェネレーションシステム  
300kW×2基



愛知健康の森  
ガスエンジンコージェネレーションシステム  
300kW×2基



栄ワシントンホテル  
リン酸型燃料電池コージェネレーションシステム  
100kW×1基



東邦ガス総合研究所  
各メーカー燃料電池の実証試験他

平成14年2月22日

第6回視察調査

産業用コージェネレーションシステム

「天然ガスを利用した市民(企業含む)向けコージェネレーション事例集の作成と普及活動」の一環として、1月の民生用コージェネシステム事例の視察に続き、今回は産業用コージェネレーションシステムの視察を行いました。

41名参加

視察施設

(株)デンソー高棚製作所

トヨタ自動車(株)三好工場

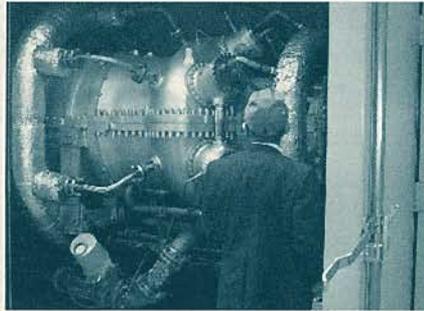
日東工業(株)本社名古屋工場

援助

新エネルギー産業技術総合開発機構

(NEDO)

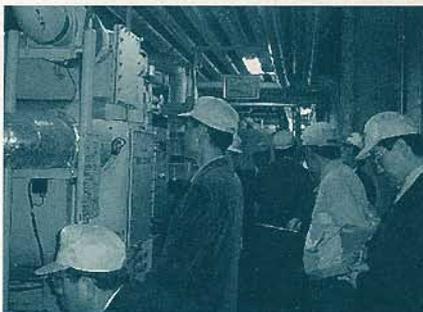
「新エネルギー草の根支援事業」



(株)デンソー高棚製作所  
6MW級熱電可変コージェネレーションシステム



トヨタ自動車(株)三好工場  
16MW級ガスタービンコージェネレーション  
システムの説明風景



日東工業(株)本社名古屋工場  
ガスエンジンコージェネレーションシステム

平成14年3月15日

第7回視察調査

環境宣言企業の取り組み

EPOC会員で自ら企業の環境行動に対する経営姿勢や実際の活動状況、今後の取り組みなどを公開している先進的な「環境宣言企業(3月現在44企業)」を訪問視察し、参加各企業の環境行動の積極的展開を認識しました。

33名参加

視察施設

中京コカコーラボトリング(株)

東海工場

日本特殊陶業(株)小牧工場



中京コカコーラボトリング(株)  
東海工場

# 出版情報 サービス活動

EPOC会員の自己研鑽並びにレベルアップを図るとともに、EPOC活動成果を広く社会に普及、展開するため、出版並びにインターネットを活用したデータサービス情報発信機能を充実させました。

平成13年10月 発行  
化学工学の進歩35  
廃棄物処理－循環型社会に向けて



実際に循環型社会を形成するための各種研究開発や技術開発を行っている東海地区の大学、研究機関及び企業の第一線の研究者が執筆を行い、社会問題化した廃棄物処理に有効な打開策として、新規技術の開発・導入事例についてまとめました。

プラスチックやゴムのような有機廃棄物から、金属等の廃棄物まで、幅広い廃棄物のリサイクル技術を解説するとともに、ダイオキシンなどの環境ホルモンの分析技術など先端技術についても紹介しました。

出版 槇書店  
定価 5,000円  
共同出版  
環境パートナーシップ・CLUB  
(社)化学工学会東海支部

平成13年12月 発行  
ゼロエミッションへの挑戦  
循環型社会に向けた企業の取り組み

本誌はEPOCの会員の協力を得て、廃棄物低減、ゼロエミッション事例をオンサイトゼロエミ、企業連携ゼロエミ、地域ゼロエミに分類し、会員企業の具体的な取り組みについて紹介しました。

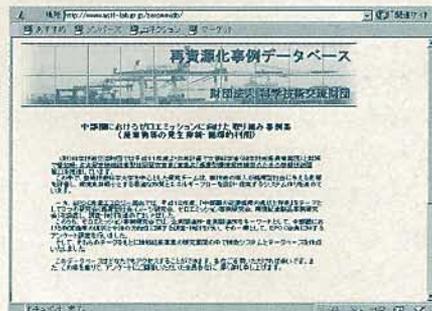
出版 日報出版社  
定価 3,500円  
監修 豊橋技術科学大学エコロジー工学系  
教授 藤江 幸一 氏  
編著 環境パートナーシップ・CLUB

平成13年11月 稼働  
廃棄物再資源化データベース

サイト: <http://www.epoc.gr.jp>

本再資源化情報は、EPOCの会員企業約100社の協力を得て、300事例近くの廃棄物低減及びゼロエミッション事例を取りまとめたものです。

具体的には、廃棄物の発生抑制から産業間連携によるリサイクルの促進までの事例を紹介しています。

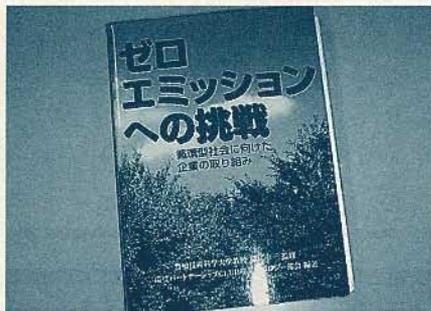


共同制作  
環境パートナーシップ・CLUB  
(財)科学技術交流財団

平成14年2月 発行  
事例集  
コージェネレーションの普及に向けて

市民レベルにまでコージェネレーションの普及を図るため、EPOC会員が導入しているコージェネレーションを中心に、その事例を紹介し、コージェネレーションの効果、今後の動向などについても展望しています。

出版 環境パートナーシップ・CLUB  
無料配布(2,000部)  
援助 新エネルギー産業技術総合開発機構  
(NEDO)  
「新エネルギー草の根支援事業」





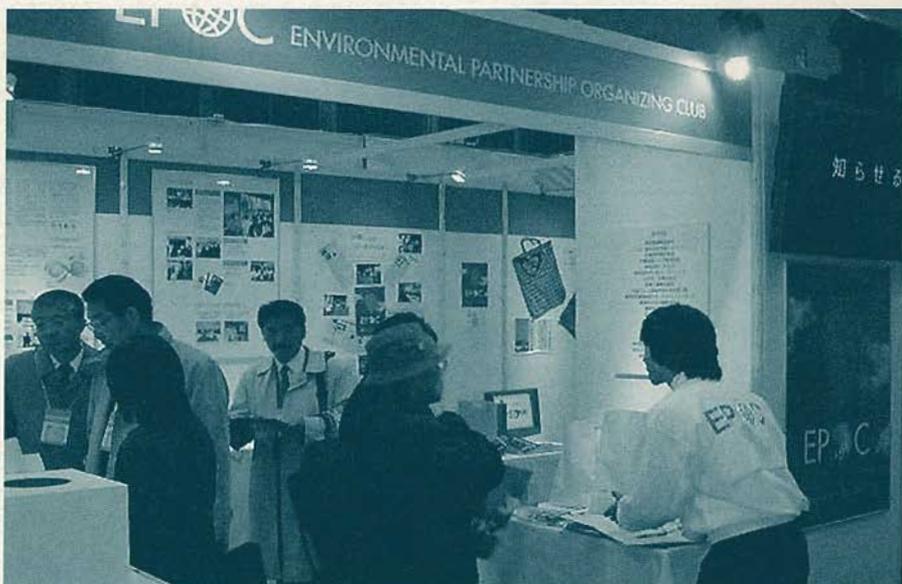
# 企画推進活動

今後のEPOCの進むべき方向を設立の趣旨に沿って確認するために、これまでの活動の総括および会員ニーズを踏まえて、中期ビジョン「EPOCアジェンダ21」を策定しました。

また、部会間にまたがるEPOC全体のイベント活動を推進すると共に、共通課題及び新規事業提案の検討を行うことにより、円滑なEPOC運営の基盤を整備しました。

平成13年12月13日～15日(3日間)  
エコプロダクツ2001出展

平成14年1月  
会員アンケートの実施



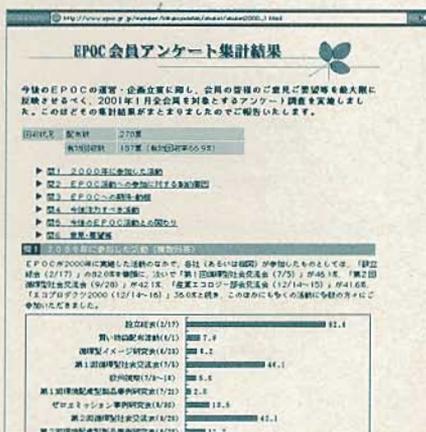
今後のEPOCの運営・企画立案に際し、会員の皆様のご意見ご要望等を最大限に反映させるべく、2001年1月全会員を対象とするアンケート調査を実施しました。

回収状況

配布数 278票

有効回収数 187票

(有効回収率 66.9%)



活動を広く一般にご理解いただくために、昨年に引き続き「エコプロダクツ2001」に出展致しました。

「エコプロダクツ2001」は、循環型社会へ向け、あらゆる分野のエコプロダクツと、関連する環境ビジネスを紹介し、消費者・生産者双方の環境意識を高め、エコプロダクツの普及促進を進める目的で開催されたものです。

平成14年3月  
EPOCアジェンダ21の策定

東京ビックサイト東展示場4,5,6ホール  
ブース来場者 25,000人  
入場者数 88,604人(昨年 67,838人)  
出展社数 350社(昨年 305社)

(主催者発表公式記録より抜粋)

主催 (社)産業環境管理協会

日本経済新聞社

後援 経済産業省、新エネルギー産業

技術総合開発機構(NEDO) 他

「アジェンダ21」は、中期におけるEPOCの事業活動のあり方(目標)について自己宣言し、メンバーの一致協力の下、先駆的活動の継続的推進を図ることを目的としています。

# 情報発信機能 の強化

会員増強とともに、EPOC活動、EPOC会員の環境行動の紹介などインターネットを活用して積極的な对外情報提供活動を図りました。

## EPOC EXPRESS の発行 (第17号～第51号)

2001年7月  
平成12年度  
EPOCパンフレットのリニューアル



平成13年12月15日  
国際エコデザイン学会  
中部発循環型経済社会を目指して

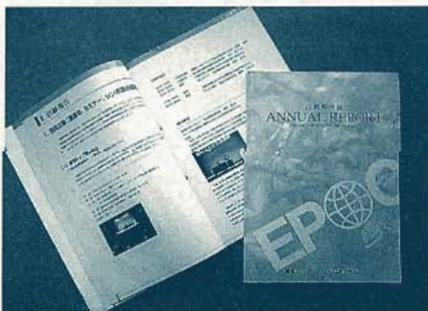


安井 会長

ビッグサイトにて「エコプロダクツ2001」と同時開催された「エコデザイン2001」(エコデザイン及びインバース・マニュファクチャリングに関する国際シンポジウム)の化学工学会セッションにてEPOC安井会長が「中部発循環型経済社会構築」と題し、EPOC活動概要と方向性について英語講演を行いました。

当日は、外国人を含め30名以上の参加者が熱心に聴き入り、EPOCとして、全国・世界への貴重な発信をすることができました。

## 2001年12月 平成12年度 EPOCアニュアルレポートの作成



## 2001年12月15日 英語版ホームページの公開



展示会出展でのEPOC 情報発信

平成13年9月2日  
環境デーなごや2001



市民、行政、企業が共に環境を考える「環境デーなごや2001」が名古屋久屋大通公園で開催され、EPOCも市民とのつながりを持つことを目的に出展しました。会場では、市民団体や企業など、様々な立場で環境問題に取り組む約140団体が出展し、会場は家族連れで賑わいました。

EPOCブースでは、「環境パートナーシップ・クラブ」の紹介と「EPOC環境宣言企業登録システム」のデモを行いました。多くの市民、企業関係者が足を止めEPOCの活動に興味を示していかれました。中には、「ECOノート、すごく役立ちそう」と喜んでくれた市民の方や、「こんなクラブだったら、いずれ入会してみたい」との声も聞かれ、予想以上の出展の成果をあげることができました。

主催 名古屋市

平成13年10月24日～27日  
フロンティア21エレクトロニクスショー

吹上ホールにて開催された「フロンティア21エレクトロニクスショー」の環境関連団体7社によるECOコーナーに出展し、「環境宣言企業登録システム」のデモとパネル展示を行いました。



会場風景

会員企業レポート作成

平成13年4月6日公開  
名古屋メッキ株式会社

平成13年6月8日公開  
ワシントンホテル株式会社



平成13年6月20日公開  
日本福祉大学



平成13年7月31日公開  
(財)東海技術センター

# 業務報告

平成13年7月11日  
平成13年度総会



「環境パートナーシップ・CLUB」の平成13年度第1回総会を、全日空ホテルズホテルグランコート名古屋(名古屋市中区金山)において開催しました。総会には、247社(本人・代理、委任状含めて)が参加し、総会審議は無事終了しました。

会員数は、設立時に246社にてスタートし、現在(平成13年7月)294社にて、その増加数(48社)から中部地域産業界における環境行動への熱意とEPOCへの関心がさらに高まっていることがわかります。

まず、安井会長から挨拶があり、その後、竹内総合事務局長より平成12年度活動報告及び収支決算書承認、平成13年活動計画及び収支予算審議決定、理事改選(交替)、規約改定などの議案が承認されました。

最後に、行政を代表して市川中部経済産業局長の挨拶があり、滞りなく閉会しました。

全日空ホテルズ  
ホテルグランコート名古屋5F  
「ローズルーム」

基調講演  
ソニーの環境経営

独創的な商品、サービスを創出し続け、「世界のソニー」として親しまれるグローバル企業ソニー株式会社の環境経営について佐野角夫氏に講演していただきました。



ソニー(株) 顧問 佐野角夫氏

平成13年7月11日  
第3回 理事会

議件

I 議決事項

- 1 平成12年度 活動計画報告  
及び収支決算書承認の件
- 2 平成13年度 活動計画報告  
及び収支予算書審議決定の件
- 3 規約改訂の件

II 報告事項

会場 全日空ホテルズ  
ホテルグランコート名古屋6F  
「うぐいすの間」

出席者 理事12名、監事2名、顧問2名



平成14年3月1日  
第4回 理事会

議件

I 議決事項

- 1 役員改選の件
- 2 規約改訂の件
- 3 EPOC ビジョン  
(EPOC アジェンダ21)の件
- 4 平成14年度 活動計画(案)  
及び収支予算書(案)審議決定の件

II 報告事項

会場 日本ガイシ(株)役員会議室  
出席者 理事11名、監事1名、顧問4名

平成14年3月1日  
第3回 意見交流会  
日本ガイシ(株)の環境活動



会場 日本ガイシ(株)役員会議室  
出席者 理事11名、監事1名、顧問4名

平成13年6月21日  
第1回 幹事会

議件  
I 議案  
平成13年度 総会の件  
1 平成12年度 活動報告及び  
収支決算書承認の件  
2 平成12年度 活動計画及び  
収支予算審議決定の件  
3 理事選任の件  
4 規約改訂の件  
5 総会運営の件  
II 報告事項

会場 中部経済産業局  
2階大会議室  
出席者 幹事17名

平成14年2月21日  
第3回 幹事会

議題  
I 議案  
1 役員改選の件  
2 規約改訂の件  
3 EPOCビジョン  
(EPOCアジェンダ21)の件  
4 平成14年度 活動計画(案)  
及び収支予算書審議決定の件  
II 報告事項

会場 トヨタ自動車(株)  
名古屋ビル 7階71号室  
出席者 幹事19名

平成13年10月18日  
第2回 幹事会

議件  
I 議案  
1 EPOCビジョン  
(アジェンダ21)の件  
2 国連大学ゼロエミフォーラム  
相互入会の件  
3 環境宣言システムの件  
4 EPOCアニュアルレポート作成、  
EPOCホームページ 英語版作成の件  
II 報告事項



会場 中部経済産業局 1階大会議室  
出席者 幹事16名

## 総会

### 理事会

会長	安井義博	ブラザー工業(株) 代表取締役社長
副会長	池淵浩介	トヨタ自動車(株) 代表取締役副会長
//	柴田昌治	日本ガイシ(株) 代表取締役社長
理事	楠本 恭	出光興産(株) 取締役 愛知製油所所長
//	杉野正博	(株)INAX 代表取締役社長
//	山口辰弐	イオン(株) 取締役 中部カンパニー支社長
//	永広和夫	新日本製鐵(株) 取締役 名古屋製鐵所所長
//	中野淳司	中部電力(株) 代表取締役副社長
//	岡部 弘	(株)デンソー 代表取締役社長
//	清水定彦	東邦ガス(株) 代表取締役会長
//	中村 巧	富士通(株) 東海支社長
//	守山 淳	三井物産(株) 取締役 中部支社長

**総合事務局** 事務局長 竹内弘之 (社)中部産業連盟  
専務理事 総合事業本部長

### 幹事会

幹事長	渡辺共祥	ブラザー工業(株) 取締役専務
副幹事長	児玉宅郎	トヨタ自動車(株) プラントエンジニアリング 部長
//	大野正直	日本ガイシ(株) 取締役 ものづくりセンター長
幹事	宮本武史	愛知県 産業労働部長
//	内田敏男	石塚硝子(株) 取締役 生産本部長
//	岡田志郎	出光興産(株) 愛知製油所副所長
//	石田秀輝	(株)INAX 取締役 技術統括部長
//	豊田良則	岐阜県 新産業労働局長
//	岡田次生	イオン(株) 中部カンパニー副支社長
//	水谷武司	シヤチハタ(株) 取締役 生産担当
//	林 岳志	新日本製鐵(株) 名古屋製鐵所総務部長
//	板谷憲次	経済産業省 中部経済産業局 産業企画部長
//	佐藤正次郎	中部電力(株) 立地環境本部環境部長
//	古屋嘉彦	(株)デンソー 専務取締役
//	大橋光雅	東邦ガス(株) 環境部長
//	諏訪一夫	名古屋市 市民経済局長
//	古賀剛志	富士通(株) 環境本部長代理
//	樋口勝典	三重県 農林水産商工部長
//	砥板種弘	三井物産(株) 中部支社業務部業務室長

**顧問**      **行政機関**

市川祐三 経済産業省 中部経済産業局長  
神田真秋 愛知県知事  
梶原 拓 岐阜県知事  
北川正恭 三重県知事  
松原武久 名古屋市長

**学識経験者**

小川英次 中京大学学長  
架谷昌信 名古屋大学  
大学院教授

**監事**

石塚芳三 石塚硝子(株) 代表取締役社長  
舟橋紳吉郎 シヤチハタ(株) 代表取締役社長

**企画推進部会**

部会長 古屋嘉彦 (株)デンソー  
副部会長 内田敏男 石塚硝子(株)  
// 水谷武司 シヤチハタ(株)

**交流促進部会**

部会長 大野正直 日本ガイシ(株)  
副部会長 大橋光雅 東邦ガス(株)

**産業IPOP部会**

部会長 児玉宅郎 トヨタ自動車(株)  
副部会長 林 岳志 新日本製鐵(株)  
// 佐藤正次郎 中部電力(株)  
// 岡田次生 イオン(株)  
// 砥板種弘 三井物産(株)  
// 岡田志郎 出光興産(株)

**環境経営標準化部会**

部会長 石田秀輝 (株)INAX  
副部会長 古賀剛志 富士通(株)



ENVIRONMENTAL  
PARTNERSHIP  
ORGANIZING  
CLUB

編集・発行

環境パートナーシップ・CLUB事務局

〒461-8580 名古屋市東区白壁3-12-13

社団法人中部産業連盟内

Tel 052-931-3181, Fax 052-931-5198

<http://www.epoc.gr.jp/>

デザイン クレメンス・メッツラー

印刷 竹田印刷株式会社

2002.7



古紙配合率100%再生紙を  
使用しています。



印刷にはソイインク(大豆油)  
を使用しています。